

学校教育ビジョン

学校スローガン【子どもが主役の授業】
学校教育目標

心豊かでたくましく、しっかりと考え進んで行動する三谷っ子の育成

めざす児童像

- ①よく考え、自分から進んで行動する子
- ②よりよくなるとうと最後まであきらめずにやりぬく子
- ③思いやりの気持ちをもち、認め合い高め合う子
- ④郷土を愛し、家庭や地域の人々に感謝の気持ちをもつ子

仲間と共によりよい社会を切り開く資質・能力の確実な育成のために

- ①教育活動全般を通じた主体的な児童の育成
- ②主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり
- ③心身共に豊かでたくましい子の育成

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「授業は自分たちで創る」を旨い言葉に子どもが主体的に学ぶ授業づくりをする。	付けたい力を明確にし、単元デザインをする。また、国語の「言葉の広場」の語句を活用し表現に生かす。	教務主任	自分の考えをまとめることや、その際に関連する語句を活用することに課題がある。	【成果指標】授業において、適切な語句を用いて自分の考えをまとめることができる。	学期末に自分の考えをまとめる考えの形成を見取る評価テストなどで、達成率が80%以上の児童の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学力向上1校1プランの1学期・2学期の検証で実施する。	C		評価テストは、76.8%であった。2学期は「単元デザイン」では児童につけたい力を明確にし学期に2以上を取り組むこと、「言葉の広場」や「教科に特化した言葉」の活用等は作文・ふり返り・発言等で活用できる提案を推進し実践につなげ、児童に自分の考えをまとめる考えの形成の力をつける。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	みんなが過ごしやすく、児童同士が認め合い高め合える関係が築けるよう、「温かい言葉であふれる三谷小」を目指す。	みんなが過ごしやすくなる言葉を共有し、意識して使う場面を増やす。児童会や行事と連携し、全校に伝えたり、目標に取り入れたいりする。	生徒指導主事	普段から友達と温かく関わり合い、協力することができる児童が多い。授業中だけでなく休み時間等児童同士で関わる場面や行事などで異学年と関わり合う場面でも、みんなが過ごしやすくなる言葉を増やしている。	【成果指標】みんなが過ごしやすくなる言葉(挨拶・ふわふわ言葉・プラス言葉)を、使うことができる。	みんなが過ごしやすくなる言葉(挨拶・ふわふわ言葉・プラス言葉)を、使うことができる。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	B		肯定的な割合が93.1%で否定的な割合が6.9%であった。児童会・各委員会の活動(企画、人権集会など)や規律ある日々の授業を通して、児童同士が自然に温かい言葉を交わしやすい環境を作り、安心して過ごせる学校を目指す。また、いじめ対応アドバイザーからの助言やwebQUの分析を元に一人一人が認められるクラスの実践を取り組んでいく。
	生徒指導の3機能に安全・安心な風土の醸成を加えた授業作りや行事、縦割り活動に取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	年2回のアンケートと面談により児童の実態把握を図り、児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業づくりや行事、縦割り活動を実施する。	生徒指導主事	少人数で仲良く関わり合っているが、限られた人間関係の中での関係作りや、自分も相手も気持ちよく関わる居場所作り課題も見られる。	【努力指標】児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業や行事、縦割り活動の実践を行う。	児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう、「共感的人間関係」を意識した授業や行事、縦割り活動の実践を行うことのできたと答える教職員の上位回答の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	C		肯定的な割合が85.7%で否定的な割合が14.3%であった。職員全員が役割を持った縦割り活動や学校行事の実践に取り組むことで職員同士が関わりあえる場を作る。また、生徒指導の4つの視点を毎月ふり返り、日々の学級づくりに取り組む。
③キャリア教育・進路指導	現在の自分より少し高めの目標を設定し、その達成に向けて前向きに努力し、やり遂げた満足感を味わわせることで自己肯定感を高め、将来の夢や希望をふくらませる。	各種行事や取組等において、各学年や個人の実態に応じて、「今よりも少し上」を意識した目標を持たせ、目標が達成できるようにする。そのめあてに対するふり返りを確実に実施する。	キャリア担当	行事や取組においても、適切な目標を設定し、努力する姿がみられる。引き続き、少し高めの目標を設定し、その達成に向けて努力できるように支援している。	【努力目標】各種行事や取組等において、児童が「現在よりも少し高め」を意識した目標設定をし、その達成に向けて努力することができる。	各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、「記録が伸びた・成長した・目標達成に向けてがんばれた」と自己評価で上位回答した児童・教職員の割合が A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	A		児童も教職員も肯定的意見は100%であった。2学期は、めあてのたて方やふり返り方を共通理解する。そして運動会・マラソン大会などの各種行事のめあて達成に向けて、教職員は児童の自己肯定感が高まる声掛けをしていく。
④保健管理	児童の発達段階に応じて、柔軟性の向上を中心に、バランスの良い体力向上を目指す。	器械運動領域だけでなく、準備体操やウォーミングアップ等で柔軟性を高める動きを取り入れる。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、柔軟性において、全体的に弱い傾向がみられる。	【成果指標】体力テストにおいて、柔軟性の6項目中4項目以上、全48項目中38項目以上で県平均記録を上回る。	体力テストにおいて、柔軟性6項目中かつ全48項目中、県平均記録を突破した項目が、 A 4項目かつ38項目以上 B 3項目かつ34項目以上 C 2項目かつ29項目以上 D 1項目かつ24項目未満	体力テストを実施し、体力分析を行う。	A		48項目中42項目、約87.5%でAだった。本校の▲の中で長座体前屈が最も低い値であったので、柔軟性を意識した運動(準備体操、器械運動)を通して改善を目指す。
	心身の健康保持に関心を持たせ、メディアコントロールの意識向上に向けた指導の充実を図る。	児童委員会活動を中心に、メディア使用が及ぼす心身の健康への影響とメディアとの上手な付き合い方について関心を持てるよう働きかける。	養護教諭	昨年度の取り組みから、多くの児童がメディアの使用時間を見直すことができた一方で、継続することが難しい児童もみられる。また、タブレット使用時の姿勢が悪い児童がみられ、視力がB以下の児童や脊柱側弯症・姿勢異常と診断される児童も多い。	【成果指標】健康に留意したメディア使用を心掛けることができる。	「健康に気をつけてメディアを使用することができた」と答えた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月・12月に児童対象のアンケートを実施する。	A		上位回答が90%でA回答が65%だった。7月に実施したメディアコントロールの取り組みでは、メディア使用時間が普段より短くなった児童が多く見られた。2学期以降は、より健康に留意したメディア使用ができるよう、タブレット使用時の姿勢やメディア使用時の適切な環境についても指導し、児童自らが行動に移せるような手立てを講じていく。
⑤安全管理	防災の知識や意識を高め児童が自ら考え、その場に応じた行動ができることを目指す。	事前・事後指導の充実を図るなど、訓練の内容や方法を工夫し、児童が訓練のめあてをもち訓練に臨む。	教頭	昨年度、児童は訓練のめあてを意識した行動ができた。災害への意識を更に高めるために、訓練内容や方法を考え取り組む必要がある。	【努力指標】訓練の内容や方法を工夫し、児童とめあてを共有して訓練に臨む。	訓練の内容や方法を工夫し、児童とめあてを共有して訓練に臨むことのできたと答える教職員の上位回答の割合が A100% B80% C60% D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施	A		よくできた60%、できた40%である。児童が自身の身を守る行動を学び、目的をもち訓練に臨むことができるよう、より具体的な提案を行うことで、共通理解を図り、共通実践につなげていく。休み時間の訓練を設定することで、児童自身が自分の身を守る力を高めていくようにする。
⑥特別支援教育	児童の困り感や特性を共通理解し、全職員で支援策を検討・共有・見直しをし、個に応じた支援体制を整える。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり、支援体制を整えたりする。	特別支援教育コーディネーター	学習面・行動面で気になる児童について、教職員で共通理解を図っている。児童が安心して学びにむかえるよう、特に学習支援が必要な児童について情報交換し、支援体制を整えていく。	【努力指標】個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり支援体制を整えたりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め、支援策を検討したり支援体制を整えたりする。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A		少人数の学びを教師がみとって個に応じた支援をし、担任・級外・支援員が情報交換しながら支援体制を整えることができた。個々の児童の様子を教員間で共通理解しながら、児童が自ら学び個別最適な学びとなるよう、学習環境を整備・提案していく。
⑦組織運営・業務改善	担当業務の見直しを図り、業務の精選、重点化を図る。	各業務分掌の取組を洗い出し、取組の精選、重点化を図る。ICTを活用し、業務の効率化を図る。	教頭	一人が抱える業務が膨大である。組織的に連携を図りながら業務改善を図る必要がある。	【努力指標】業務の精選、重点化を図り、組織で連携を図りながら効率的に業務改善に取り組む。	業務の精選、重点化を図り、連携を図りながら効率的に業務改善に取り組むことのできたと答える教職員の上位回答の割合が A80% B70% C60% D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A		できた80%、もう少し20%である。業務の精選、重点化、踏踏みの見直し等を更に進め、業務改善を図っていく。例えば、研究とGIGAをコラボする等、創意工夫することで業務改善を図ったり、一人一人のやりがいにつながるよう各部の連携を強化していく。
⑧研修	国語科を中心に児童の「～たい」が生まれる子どもが主役の授業づくりを研究・実践し、自律した学びの育成を目指す。	児童が自分で判断・選択し学びを進めていくことができるよう、授業のふりかえり、次時の見直しをもち、自分の学びを自分でつくることにつなげる。	研究主任	児童は落ち着いて真面目に学びに向かっているが、少人数だからこそ目が届き、教師が手をかけてしまう。	【成果指標】児童・教員にアンケートを実施し、児童の自律した学びの自覚化と教員の授業改善の意識の向上を図る。	授業のふりかえり、次時の見直しを持ち、自分の学びを自分で計画することができたと答える児童・教員の上位回答の割合が A 80%以上 B70%以上 C 60%以上 D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	B		肯定的な回答が児童は96.7%、教員は71.4%であった。学びの実感と自己の学び方、次時への繋がりに意識をもつための3つの振り返りの視点を共通理解し、どの授業でも2学期から実践していく。
⑨保護者、地域との連携	地域の魅力を生かした実践を通して、児童の地域への感謝や誇り郷土愛の心を育てる。	地域の方との連携を図り、地域人材や地域教材を生かした授業実践を行う。	教頭	豊かな自然、人材等、学びの環境が大変充実している。コロナ禍により、規模や方法を工夫し実施している。	【成果指標】児童が、授業で地域の人から学ぶ機会をもち、地域の魅力を知ることができる。	授業で地域の人から学び、地域の魅力を知ることができたと答える児童・職員上位回答割合が A90% B80% C60% D60%未満	7月・12月に児童・職員対象のアンケートを実施	A		教職員：よくできた20%、できた60%、できなかった20%、児童：よくできた93.3%、できた3.3%、あまりできなかった3.3%である。CSの学習活動支援部と連携を図りながら、授業で地域の方から学び、地域の魅力を知る場を設定していく。
⑩教育環境整備	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等、教育効果を高める学習環境の充実を図る。	児童の学びの足跡、既習、成果物等、教育効果を高める学習環境整備に努める。	教頭	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境の整備に取り組んでいる。	【努力指標】児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境を整備する。	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境整備に努めたと答える教職員の上位回答割合が A100% B80% C60% D60%未満	7月・12月に教職員アンケートを実施	A		よくできた20%、できた80%である。学校全体で共通理解を図り、統一感のある学習環境が整うように推進していく。さらに、CSと連携を図りながら、子供たちの学びの環境を整えていく。

学校関係者評価	
---------	--